

**日本政府は、さる8月18日に、
稲嶺市長を再選した地元の名護市の民意と、沖縄県民の大多数の反対世論を踏みにじり、
辺野古新基地建設にむけてのボーリング（海底掘削）調査を強行しました。**

日本政府は、調査に先立ち海上での立ち入り禁止区域を拡大しました。日米地位協定では、海上での制限水域の拡大は、米軍の使用に限られています。今回の日本政府が行う、埋め立て工事のための立ち入り制限区域の拡大は、地位協定の解釈上も無理があり、同協定の目的からも逸脱しています。／海上保安庁は、海上でカヌーで抗議する人々を立ち入り制限禁止区域の外で、強制排除、拘束したり、さらにはカヌーに乗っている人を数名で羽交い絞めにして、顔に傷をつけたり、10日間の頸椎捻挫のケガを負わせる暴力行為を行いました。／陸上では、キャンプシュワブのゲート前で抗議する県民を、機動隊や民間警備員を動員して排除しています。さらにゲート前の公道には、道路占用の許可もとらずに、三角形の突起の並んだ危険な鉄板を設置しました。県民が警察に排除されてころんだら大ケガをします。まさに「殺人鉄板」です。

**私たちは、日本政府が防衛省、警察、海上保安庁の権力を総動員して、強権的に県民の声を押しつぶし、
基地建設を強行しようとするこの暴挙を絶対に許せません。**

日本政府は他の都道府県でここまでの酷いことが出来るでしょうか。明確な沖縄差別です。

**沖縄県民は、日本政府による強権を発動しての基地建設の強行にいささかも怯んでいません。
日ごとに「絶対に日本政府の横暴に屈しない」と県民の怒りの声が湧き上がっています。**

キャンプシュワブのゲート前の抗議行動には日ごとに若者や家族づれの参加者が増えてきています。そして、8月23日には、わずか数日間の準備にもかかわらず、これまで最大規模の3600名の県民が大結集し、ゲート前を埋め尽くしました。9月20に第二波、そして年内には数万人規模の集会の開催が決定しています。8月26日付の「琉球新報」の世論調査では、辺野古中止が80%となり、これまでの70%台をさらに上回りました。日本政府への沖縄県民の怒りはますます高まっています。

**こうした中で、私たちは9月20日に、沖縄と呼応して集会とデモ行進を行います。
多くの皆さんの参加を呼びかけます。**

